特集

# 地域で支え合おう介護

## ～調査結果からみる介護事情～

全国で認知症の推定患者数が462万人となり、「認知症」への取り組みがますます求められています。中でも、認知症の方が徘徊で保護される件数が増えていることから、市では昨年度「認知症の方の一人歩き（徘徊）」の実態調査を行いました。

また、介護者には、夫や息子といった「男性介護者」も多く、突然介護や家事を担わざるを得ない状況になった方も少なくないことから、「男性介護者」の実態調査を行いました。

### 市内で徘徊保護件数が増加！

高島市での、認知症（疑いを含む）の方の徘徊保護件数は、平成22年度には述べ20件でしたが、23年度には42件、24年度は40件と倍増しています。

## 認知症の方の一人歩きに関する実態調査

### 家族からの聞き取り調査結果

こんな意見がありました

#### 地域への思い

・近所の人が本人のことを気にかけて協力してくれるので助かる。
・近所に理解されていないことで孤立している。疎外感を感じている。
・まだまだ近所の理解がない。ここには住めないと思うこともある･･･。

**▼期待すること**

・認知症を正しく理解し対応してほしい。
・一人歩き（徘徊）についても理解し、サポートしてほしい。
・近所の人が「○○さんここにいたで」と教えてくれるような地域になってほしい。

#### 家族としてできること

・病気のことを近所の人に伝えるのは抵抗があったが、いずれ知れることだし知ってもらう方が良い。

**▼期待すること**

・認知症だということを打ち明けることができる地域づくりが必要。
・近所付き合いをして顔を知ってもらっておく。

#### 捜索願、防災行政無線の利用についての思い

・捜索願を出したりすると、みんなに迷惑がかかり大変になる。
・「みんなに知れてしまう」と思ったが、暗くなって心配だったので、警察に連絡をした。
・自分たちだけでは見つからなかったので、協力してもらえてよかった。

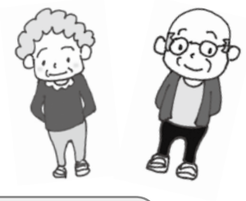
**▼期待すること**

・本人がいなくなった時、どこに連絡していいのかわからないので、総合相談窓口のようなものを作ってほしい。
・本人を早く安全に探し出すための体制づくりをしてほしい。

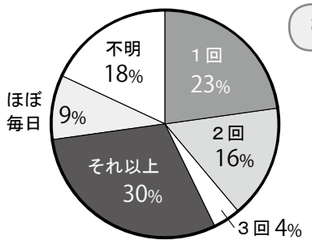
## 市内居宅介護支援事業所22か所からの調査結果

～過去3年間の実態についての聞き取り調査～

聞き取り調査の結果、91％の方が認知症の診断を受けておられ、そのうちアルツハイマー型認知症が58％と大半を占めていました。

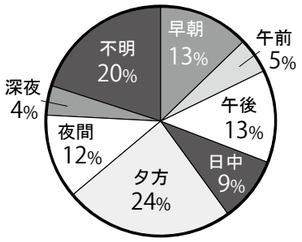


### 徘徊回数




2回以上一人歩き（徘徊）があるケースが59％を占めています。回数が増えてくると家族や支援者の心配は尽きません。

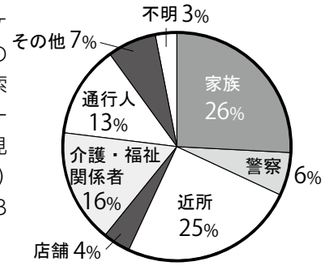
### 出て行かれた時の時間帯



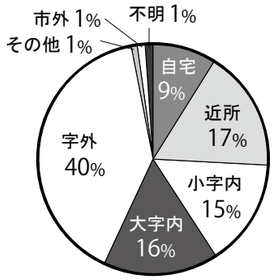

一人歩き（徘徊）の時間は早朝や夕方に偏るのではなく、どの時間帯でも同じような割合でした。（明るい時間帯40％、暗い時間帯40％）

### 最初に本人を見つけた方

警察で保護されたケースは5件で、全体の6％でした。内、捜索願を届け出ていたケースは3件でした。顔見知りでない人（通行人）が発見した割合が13％あります。

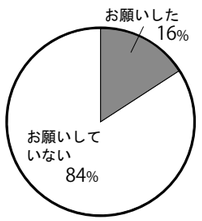



### どこで見つかったか

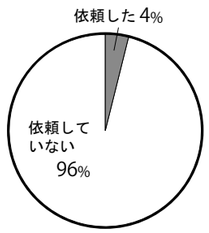



集落外で見つかるケースが58％で、集落外になると顔見知りの割合が少なくなりますが、発見される割合は高く、顔見知りでなくても発見できる体制づくりが必要だと考えられます。

### 近所の方へ協力の依頼

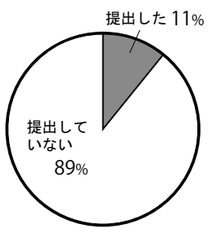



### 防災行政無線の依頼

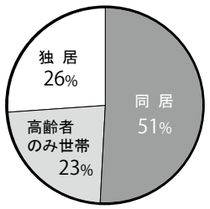



※防災行政無線は警察を通じて依頼があった場合のみ放送しています。

### 捜索願の提出




### 家族の状況




このような実態調査の結果から、認知症を正しく理解し、地域で声をかけ合い見守りができる地域づくりや、認知症の方の行方がわからなくなっても、安全に早く見つかり自宅に戻ることができる体制づくりを考えています。皆さんもこの機会に認知症のことや一人歩き（徘徊）について考えてみてください。

一人歩き（徘徊）は、周りから見れば「あてもなく」ということになるのですが、本人にとっては、目的や理由があっての行動と考えられます。

「何か不安そうにしている」など『あれ？』と気づいたら、「どちらまでおでかけですか？」と声をかけてあげてください。

話があいまいで、名前がはっきりわからない場合